

こころ育てる絵本との出会い

まがちゃん通信

2010 4-5 vol.

1

絵本原画展

あきやまただし

特集

絵本と子育て



子育てのなかで成長を見守る…
父親の視点から生まれた絵本ワールド

絵本作家インタビュー

あきやま ただし



『こんにちは たまごにいちちゃん』（鈴木出版）より



あきやまただしプロフィール

1964年東京生まれ。東京芸術大学デザイン科卒業。
1992年「ふしぎなカーニバル」（講談社）で
講談社絵本新人賞、1995年「はやくねてよ」
（岩崎書店）で日本絵本賞大賞受賞。
NHKでおなじみのアニメ「パンツぱんくろう」の作者。
「まめうし」シリーズ（PHP研究所）、
「たまごにいちちゃん」シリーズ（鈴木出版）、
「へんしん」シリーズ（金の星社）など絵本作品多数。
全国各地で開催する絵本ライブも人気を博しています。

まめうし、たまごにいちちゃん、パンツぱんくろう、はなかつぱ…。

数々のキャラクターを生み出してきた

あきやまただしさんの絵本原画展を開催します。

子どもの気持ちをまっすぐに見すえて、子どもたちと正面から
向き合いながら絵本作りをしているというあきやまさんの作品は、
子どもだけでなく、大人の心もつかみ大人気！！

ユニークで個性あふれるあきやまただしワールドを
ご家族でたっぷりとお楽しみください。



『はなかつぱ』
メディアファクトリー



『まめうし』
PHP研究所



『さかさのこもりくん』
教育画劇



『ひつじぱん』
鈴木出版

原画展示絵本

絵本原画展開催

4月1日（木）
5月27日（木）

あきやまだしさんに インタビュー



絵本作家になったきっかけは？

子どもの時から絵を描く仕事をしたかったんですよ。大学では、漫画研究会に所属しました。それまで読んできた手塚治虫さん、赤塚不二夫さん、横溝がずおさん、水木しげるさんといった漫画家の影響が大きかったですね。絵本作家ではスズキコージさんの独特な世界に影響を受けました。卒業後は、マンガ家もイラストレーターもやりました。人に楽しんでもらえる絵を描くということが常に基本にありましたね。子どもができたのをきっかけに絵本に興味を持つようになったんです。

では、お子さんに絵本の読み聞かせをしたりとかも？

そうですね。子どもに読んでいくうちに、漫画の世界を生かして、絵本をエンターテインメントとして見せる表現をすれば、もっと面白いものが描ける、と、思いましたね。

印象深い絵本の制作秘話や思い出などを教えてください。

『はやくねてよ』は一番印象深い絵本です。絵本大賞をいただいて、作家としてやっていけると思えた作品でした。描き終わるのに一ヶ月かかりました。『ひつじばん』は3歳向けに作った絵本です。言葉が簡単な分、リズムカルに読めるように工夫しました。ぼくはいつも歌いながら読んでいますよ。

『まめうし』は息子がモデルなんです。両親

にしっかり見守られ、帰る場所がしっかりあるからこそ、子どもは自由になれるんだというのを言いたかったんです。あと想像力豊かになってほしいと思って作りました。

『たまごにいちちゃん』は『まめうし』と一緒で、ちゃんと見守られているからゆつくり成長してもいいんだよというメッセージを込めました。カラを割るということが「成長していく象徴」になっています。

『はなかつば』。きれいな水と空気、太陽、そして楽しい家族や友だちって、元氣のもとですよ。あたりまえのことだけど、大人になっても絶対に忘れないでいてほしい。そんな思いで、『みんなの宝物』をいっぱい詰め込んだシリーズを描き始めました。

お子さんたちがモデルになっている作品も多いんですね。

ほとんど私の子どもがモデルです。姉と弟です。今はもう大きくなりましたけど。

父親として子育てを振り返ってみていかがですか？

遊ぶ時は徹底的に遊び、喧嘩してわざと怒らせた時もありました。全力投球しないと子どもの本質は引き出せません。面倒くさいこともとことんやろうというのがポリシーでした。子どもにとっては面白いお父さんだったと思います。ぼく自身も幸せな子育てをさせてもらったと思っています。

絵本制作の過程で大変なところ、楽しいところを教えてください。また、今後のような絵本を描いていこうと思っていらいっしやいますか？

絵本ライブで読むことを想像しながら、声

を出して文章を書いています。自分でも笑えたらOKです。きつとお笑い芸人と一緒ですね。でもこれがとっても楽しい時間です。今後は、やはりだれも見たことのないような作品を生み出せたらいいですね。

ご趣味はお持ちですか？

古い建築物が好きです。お寺でもヨーロッパの教会でも。二十代は毎年のようにフランスに行っていました。長い休みがあればヨーロッパに行きたいです。あと、滝を見るのが好きで、絵本ライブで地方に行くと、絶対その滝を案内してもらいます。

富山県にも有名な滝がありますのでぜひ！最近嬉しかったことは何ですか？

息子が高校に合格しました！！

おめでとーございます！！

想像力！

ファンの方へのメッセージを。

まだ道半ばですが、ますます絵本作りに燃えています！これからも応援どうぞよろしくお願いします。

あきやまだしさん、ありがとうございしました。一人の子育てパパさんの姿が見え隠れして、読者のみなさんも、作品をより身近に感じられたと思います。

※表紙「もつとひつじばん」

(絵本出版)より



あきやまだし絵本ライブ開催!!

日時 5月23日(日)14:00~

場所 射水市大島絵本館シアター

チケット 大人/1500円 小中学生/600円

あきやまだしさんのサイン入りの
絵本を3名様にプレゼント!

応募方法 氏名、住所、電話番号を明記のうえ、ハガキでご応募ください。

あて先 〒939-0283 射水市島取50「あきやまだし絵本プレゼント係」

締め切り 平成22年5月30日 消印有効

※発表は発送をもって代えさせていただきます。



『きんの
たまごにいちちゃん』
鈴木出版



『へんしんトンネル』
金の星社

特集 / 絵本と子育て



土田 陽一

射水市大島絵本館 事務局長。
絵本と子育てをテーマに県内各地で
講演を行っている。

親子で楽しむ絵本の世界

平成13年2月3日、私が「おとうさん」になった日です。私が父親になつてまず、最初に悩んだのが、わが子に何を教えていけばよいのだろうか？どのように接してやればよいのだろうか？ということでした。昔から「三つ子の魂百まで」と言われるように、子どもの基本的な体質は3歳までに土台ができあがる大切な時期です。どのように愛情を伝えていったらよいのだろう。色々な方法が頭をめぐりました。育児書なども参考に読んだりもしました。育児書など絵本の読み聞かせが子どもの成長にどのような影響を与えるか、自分自身で体験してみようと思ひ子どもに読み聞かせを始めました。

最初、子どもと過ごす時間は私にとつてつらい時間でした。子どもが「もういいよ」と言う前に逃げ出す自分がそこにはありました。しかし遊ぶコツをつかんでからは私にも楽しい時間になっていきました。絵本を読む時間、歌を歌う時間、体操する時間、お店屋さんごっここの時間、ボールころころがしゲームの時間……。コツとは子どもと一緒に楽しむという気持ちになること。すると子どもと遊ぶこんでいる時が何よりも楽しい時間と感ぜられるようになったのです。

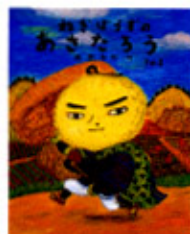
「親と子の心が通じあう」ということは、親子で時間を共有して成長していくということ。幼児期の心の教育に非常に重要な部分ではないかと思ひます。そしてある時期になると、絵本の中で使われている言葉の意味を知りたがったり、絵本の中に描いてある、さまざまな物が何かを知りたがる、何に使うものかなどを聞いてくる時期もありました。その後に、絵本の中で知った言葉や私たちが大人が使っている言葉を、実際に動作をやってみて、「これってこういうこと？」という風に聞いてきました。これは子どもの中で学んだ言葉と実際の体験した感覚が繋がり、その言葉を使いこなせるようになっていくのかなと感じた瞬間でした。

子どもはそれぞれの年齢で色々な反応を示し、想像力を高めていきます。絵本は読んであげることによって、いっしょに絵本の世界を疑似体験できるのです。子どもと絵本を楽しむ時間は、優しい心、強い心、感動する心、ユーモアを理解する心など、豊かな心を育てる大切な時間ではないでしょうか。絵本を通して親子の楽しい時間を共有してくれる人が少しでも多くなればと思います。

私のおすすめ絵本

『ねぎぼうずのあさたろう』

飯野和好／作
福音館書店



「浪曲風痛快時代劇絵本」という副題がついています。登場人物が野菜たちという楽しさそして、悪役たちをやっつける時にあさたろうから出るねぎの音が擬音で表現されている楽しい絵本。

『でんしゃがくるよ』

遠山繁年／作
教育画劇



電車の絵本は色々なものが出ていますが、我が家の子どもたちが2〜3歳ごろに楽しんだ絵本です。登場する生き物によって、色々な形の電車が駅にやってきます。

『三びきのやぎのがらがらどん』

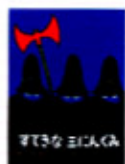
北政民話
M.ブラウン／絵
瀬田貞二／訳
福音館書店



3匹のやぎたちは山へ草を食べに行く途中。橋にはこわい怪物トロールが待ち受けます。さまざまな知恵を働かせて、駆け引きをしながら、対決し、最後には橋を渡ります。



『ぞうくんのさんぽ』
なかのひろたか／作・絵
なかのまさたか／イラスト
福音館書店



『すてきな三にんぐみ』
トニー・アンダー／作
今江 祥智／訳
偕成社



『ぐりとぐら』
なかのひろたか／作
やまわきゆりこ／絵
福音館書店



『おおきなかぶ』
ロシア民話 A・トルストイ／再話
佐藤忠良／絵 内田莉子／訳
福音館書店



『まどから おくりもの』
五味太郎／作
偕成社